

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00161

研究課題名（和文）19世紀パリのグランド・オペラ ジャンルの生成からトランスナショナルな展開へ

研究課題名（英文）Grand Opera in 19th Century Paris: From the Formation of Genre to its Transnational Development

研究代表者

丸本 隆（Marumoto, Takashi）

早稲田大学・法学大学院・名誉教授

研究者番号：60030186

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、学際的なアプローチを通じて、19世紀の文化史から見たグランド・オペラの影響力の大きさを示した。具体的にはまず、19世紀前半のフランスにおけるその成立の背景を考察し、代表的な作品を分析した上で、それを構成する各要素についても明らかにした。さらに、グランド・オペラのトランスナショナル性、すなわちイタリアやドイツとの相互影響関係（とくにヴェルディやワーグナー）、ロシアのバレエやオペラ文化、および日本の能や歌舞伎への影響、オーストラリアでの上演についても考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グランド・オペラの研究は、近年緒についたばかりで、未だフランス・オペラ史の枠組みに留まっている。しかも、日本ではその研究さえほとんど行われて来なかった。それゆえ本研究では、グランド・オペラの成立をめぐる歴史的、社会的背景、その代表的な作品の特徴、他の文化圏との相互影響関係などを考察し、舞台メディアとしての価値を問い直すことで、19世紀前半のコンテクストに留まらない、その本質的な存在意義を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：Through an interdisciplinary approach, this study showed the extent of Grand Opera's influence in the context of 19th century cultural history. Specifically, we first examined the background of its establishment in France in the first half of the 19th century, analyzed its representative works, and clarified the elements that made it up. In addition, the transnational nature of Grand Opera was considered: its mutual influence with Italy and Germany (especially with Verdi and Wagner), its influence on Russian ballet/opera culture and noh/kabuki, and its performances in Australia.

研究分野：オペラ研究

キーワード：グランド・オペラ パリ・オペラ座 19世紀オペラ 19世紀フランス文化 パリの演劇文化 マイアーベアー オペラの異文化圏における受容 演劇とオペラ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

(1) グランド・オペラとは、1820年代末から約40年間にわたり、パリ・オペラ座で制作・上演されたジャンルである。研究動向として、第二次世界大戦後は個別の作家・作品の分析が主流であったが、1980年前後から総合的・学術的アプローチが目指され、オペラを自立的な舞台メディアの一ジャンルと捉える視点に立った研究も増える。その後は一次資料の研究、実証研究も盛んになり、今世紀に入るとスコアや台本に注目した作品分析、ステージング、観客の問題に立ち入る研究など、アプローチも多様化する。一次資料を踏まえた基礎研究、外国の作曲家との相互影響関係に光をあてた研究も出ている。

(2) しかしながら、本ジャンルの多面的な性質に力点を置いての生成過程やフランス国内外における展開をめぐる研究は未だ不十分であり、政治・社会史、フランス・オペラ史のコンテクストにおける研究に留まりがちである。こうした背景を踏まえ、同時代の文芸、音楽劇（オペラ・コミックなど）やブルヴァール劇との相互関係、フランス以外の作曲家との関係性、作品のテキストとしての芸術的価値等に注目して研究を行い、このジャンルの本質的な存在意義を再検討して明らかにすることを目指した。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究は、グランド・オペラの生成・発展過程におけるアマルガム性およびトランスナショナルな相互関係を明らかにすることによって、オペラ史におけるその位置づけを新たにし、さらに19世紀オペラ全体の捉え方に変更を迫ることを目的とした。

(2) 対象とする時代は、グランド・オペラの生成期1830年前後から、その影響を受けたヴェルディやヴァーグナーが活躍した1860年代までとした。政治的には、七月革命前夜から、1848年の革命を経て第二帝政期までとした。社会的には前世紀に台頭していたブルジョワが、決定的に権力を掌握していく時代である。そうした時代状況につれて変遷する劇場の統制や運営、検閲の在り方も解明した。

(3) この時代のパリの舞台メディア、オペラ・コミックやバレエ、ヴォードヴィルやブルヴァール劇など、諸ジャンルとの影響関係、さらにイタリア、ドイツの作曲家の創作活動とグランド・オペラを中心とするパリのオペラ文化との相互影響関係、さらに、オペラの中心地を離れた東ヨーロッパや非ヨーロッパ地域におけるその受容の実態を明らかにした。

(4) これら三方向は、フランス・オペラ史の枠組みに留まっていた従来のグランド・オペラ研究を越える独自性、創造性を備えた複合的アプローチといえる。

## 3. 研究の方法

(1) 本研究では、①パリにおけるアマルガム性：グランド・オペラの生成と発展、同時代のパリの舞台メディア（オペラ・コミック、ブルヴァール劇など）の諸ジャンルとの相互影響関係を明らかにする、②トランスナショナルな展開Ⅰ：イタリア、ドイツの作曲家（主としてヴァーグナー、ヴェルディ）の創作活動と、グランド・オペラを中心とする19世紀パ

りのオペラ文化との相互影響関係を明らかにする、③トランスナショナルな展開 II：オペラを中心地を離れたロシア、さらには非ヨーロッパ地域（オーストラリア、日本）のオペラ文化との相互影響関係を明らかにする、という三つの軸をたて、フランス・オペラ史の枠組みに留まっていた従来のグランド・オペラ研究を越える、独自性・創造性を備えた複合的アプローチを試みた。

(2) 研究代表者の丸本、6名の研究分担者と5名の研究協力者がそれぞれの専門分野を生かし、上記の三つのいずれかに沿って、あるいは関連する複数のテーマを担当し、調査・研究を進めた。各自がスコアや台本、関連資料の調査・研究を進め、定期的に研究会・報告会を行った。

#### 4. 研究成果

(1) 本研究は、音楽学、演劇学、文学研究等、複数の学問分野からの学際的なアプローチによる共同研究によって、グランド・オペラのオペラ史における位置づけを確認しつつ、19世紀の文化史全体におけるその影響の大きさを解明した。

(2) まずはグランド・オペラの成立背景を、19世紀前半フランスの演劇政策や、市民社会の到来による観客層の変化などの社会史的な観点から明らかにした。その際、政府による検閲の有無やオペラ創作をめぐる著作権の進展などがグランド・オペラの成立および発展と密接に関わっていることを示した。

(3) そうした背景を確認した上で、ロッシーニ《ギョーム・テル》(1829)、アレヴィ《ユダヤの女》(1835)、マイアーベーア《悪魔ロベール》(1831)、《ユグノー教徒》(1836)など、グランド・オペラの代表作品群を詳細に分析した。それぞれの作品は舞台美術や演出の重要性の高まりを反映し視覚的効果に長けており、また音楽においては映画を思わせるようなモンタージュ的手法が使われている。これらを通して、のちの時代のオペラ作品の先駆けとなるような様々な新機軸があることが明らかになった。

(4) 作品分析と並行し、グランド・オペラの歌唱法やオーケストラの編成、グランド・オペラの台本の多くを担当した作家スクリーブの作劇法の特徴なども分析した。また劇的な場面における「タブロー」のあり方など、フランスの演劇文化との関りも示した。これらの研究を通じて、グランド・オペラをオペラ史のみに留まらない、文学や演劇を含めた19世紀のフランス文化全体の中に位置づけることが可能となった。さらにグランド・オペラにおけるバレエ場面も分析し、これまでのバレエ研究においては十分に研究されていないが、見逃すことができない「オペラの中のバレエ」の内実についても明らかにした。

(5) 上記に加え、グランド・オペラという一つの文化が、パリやフランス国内に留まることのない、トランスナショナルな現象であったという視点も強調した。《イシスの秘儀》、《森のロバン》といった、フランス国外で生まれたオペラ作品のパリでの翻案上演の分析を通じ、それらがパリで「フランス化」されるプロセスについて考察した。また今日19世紀オペラを代表する作曲家とされるイタリアのヴェルディ、ドイツのヴァーグナーの創作活動にお

いて、いかにパリのグランド・オペラが重要な存在であったのかも示した。さらにはロシアのバレエやオペラ文化への影響、日本の能や歌舞伎の近代化への影響、そしてイギリスの植民地オーストラリアにおけるグランド・オペラ上演についても明らかにした。

(6) 2022年度までの研究成果は、書籍『パリ・オペラ座とグランド・オペラ』として、同年度末に森話社より出版した。さらに同書の合評会を開き、ホーム・ページを開設するなどして、研究成果を多くの人々と共有できる形にした。これらの活動を通じて、本研究は日本のグランド・オペラ研究のみならず、オペラ史全体、さらには19世紀フランス文化史全体に対して大きな貢献をしたと思われる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 佐和田敬司	4. 巻 1006号
2. 論文標題 日本におけるオーストラリア演劇	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 テアトロ	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 東晴美	4. 巻 11巻
2. 論文標題 暮太平記白石噺 復活上演と由比正雪の再生	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 武蔵野大学日本文学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 15-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 東晴美	4. 巻 -
2. 論文標題 相思相愛の夫婦の心中 心中宵庚申	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 公演プログラム「国立文楽劇場 第168回文楽公演」	6. 最初と最後の頁 26-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 丸本隆	4. 巻 -
2. 論文標題 ホフマンと『くるみ割り人形とねずみの王様』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 公演プログラム「東京バレエ団『くるみ割り人形』」日本舞台芸術振興会	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恵美子	4. 巻 2022
2. 論文標題 バレエ『くるみ割り人形』の歴史と謎めいた魅力	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 公演プログラム「東京バレエ団『くるみ割り人形』」日本舞台芸術振興会	6. 最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恵美子	4. 巻 -
2. 論文標題 プティパ、ゴールスキーからワシーリエフへ バレエ『ドン・キホーテ』の誕生と演出の遷移	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 公演プログラム「東京バレエ団『ドン・キホーテ』」日本舞台芸術振興会	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恵美子	4. 巻 -
2. 論文標題 偉大な振付家マリウス・プティパの生涯 後編 (ロシア音楽とバレエ [4])	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本アレンスキー協会会報	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恵美子	4. 巻 -
2. 論文標題 《ドン・キホーテ》のふるさとはどこ? (ロシア音楽とバレエ [5])	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本アレンスキー協会会報	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恵美子	4. 巻 -
2. 論文標題 民話バレエ《火の鳥》の変遷 -世界へ羽ばたく組曲へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『シンフォニー』東京交響楽団	6. 最初と最後の頁 9-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平野恵美子	4. 巻 -
2. 論文標題 セルゲイ・ラフマニノフ(1873-1943)《交響的舞曲》	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『シンフォニー』東京交響楽団	6. 最初と最後の頁 9-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平野恵美子	4. 巻 -
2. 論文標題 バレエの起源(1) 『インテルメディアオ』(絵で見るバレエ史[1])	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西音楽新聞	6. 最初と最後の頁 7-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恵美子	4. 巻 -
2. 論文標題 バレエの起源(2) 『王妃のバレコミック』(絵で見るバレエ史[2])	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西音楽新聞	6. 最初と最後の頁 7-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恵美子	4. 巻 -
2. 論文標題 バレエの起源(3) 『太陽王ルイ14世と舞踊』(絵で見るバレエ史[3])	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西音楽新聞	6. 最初と最後の頁 7-7
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恵美子	4. 巻 -
2. 論文標題 越智インターナショナル・バレエ『くるみ割り人形』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西音楽新聞	6. 最初と最後の頁 8-8
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸本隆	4. 巻 -
2. 論文標題 シラー劇とヴェルディの幸せな出会い	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新国立劇場 2020/2021 シーズンオペラ「ドン・カルロ」	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥香織	4. 巻 36
2. 論文標題 道化の演劇と奇なる世界ー1720年代パリの定期市芝居とアルルカンの身体ー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本18世紀学会年報	6. 最初と最後の頁 27-42
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kaori Oku	4. 巻 292
2. 論文標題 La Comedie-Francaise au XVIIIe siecle : les privileges publics et leurs contreparties	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Revue d'histoire du theatre	6. 最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恵美子	4. 巻 35
2. 論文標題 バレエと文学 視覚化された無言の物語	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 SLAVISTIKA	6. 最初と最後の頁 389-403
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平野恵美子	4. 巻 52
2. 論文標題 (書評) 斎藤慶子著 『バレエ大国 日本の夜明け: チャイコフスキー記念東京バレエ学校 1960-1964』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ロシア語ロシア文学研究	6. 最初と最後の頁 253-263
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 嶋内博愛	4. 巻 3465
2. 論文標題 檜枝 陽一郎 (翻訳・著) 『民衆本狐ライナールトと検閲』 言叢社, 2020	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東晴美	4. 巻 84
2. 論文標題 日本演劇の伝統と2.5次元ミュージカル：俳優の身体における比較文化の視点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 相模女子大学紀要 Online edition	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東晴美	4. 巻 9
2. 論文標題 近松門左衛門作「姫山姥」の現行曲と十九世紀の歌舞伎：近松浄瑠璃の研究と歌舞伎の資料	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 武蔵野大学日本文学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 35-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東晴美	4. 巻 158
2. 論文標題 浄瑠璃の中の源義経像	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立文楽劇場 第一五八回文楽公演	6. 最初と最後の頁 26-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恵美子	4. 巻 -
2. 論文標題 『バレエ・リュスを率いた異才 ディアギレフの偉業を辿る	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西音楽新聞	6. 最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 岡本佳子
2. 発表標題 サントー・ティヴァダルによるオペラ《台風》（1924）における「日本風」場面の描写
3. 学会等名 早稲田大学総合研究機構オペラ / 音楽劇研究所 2022年10月研究例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 嶋内博愛
2. 発表標題 灰かぶりのメタモルフォーゼ(転身物語) - エティエンヌ台本《サンドリヨン》(1810)を中心に
3. 学会等名 オペラ学研究会 第52回例会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 嶋内博愛
2. 発表標題 生まれる前に死んだ子どもの行方 ドイツ民間伝承のフィールドから誕生死について考える
3. 学会等名 総合社会科学会 第24回 総会・研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaori OKU
2. 発表標題 Utopie et decouverte : representations de La Dispute au Japon
3. 学会等名 Colloque : Lieux et representations de la societe au theatre. Marivaux au siecle des utopies philosophiques, (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaori OKU
2. 発表標題 Dramaturgie du tableau et nouvel horizon du visuel : Reflexion sur Le Mariage de Figaro de Beaumarchais
3. 学会等名 Meiji University-Edinburgh University Collaboration Symposium, "Boder Crossings" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澤田敬司
2. 発表標題 パネル発表：新WEB版「演劇百科大事典」の可能性
3. 学会等名 日本演劇学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Emiko Hirano
2. 発表標題 Marius Petipa 's last choreography, ' The Magic Mirror ', and its music by a forgotten composer, Arseniy Koreshchenko
3. 学会等名 The 10th World Congress of the International Council for Central and East European Studies, Concordia University in Montreal
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshiko Okamoto
2. 発表標題 "Life and Obligation are Important" : Creation and Reception of Lengyel 's Taifun (1909)
3. 学会等名 The 10th World Congress of the International Council for Central and East European Studies, Concordia University in Montreal
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 嶋内博愛
2. 発表標題 『グリム童話集』の灰かぶりと19世紀初頭の舞台作品の灰かぶり
3. 学会等名 武蔵大学第73回公開講座「シンデレラの未永く幸せな変身」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 嶋内博愛
2. 発表標題 テキストからパフォーマンスへ グランド・オペラとその時代の作品を21世紀に上演することについて
3. 学会等名 オペラ学研究会第48回例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 嶋内博愛
2. 発表標題 オペラの「翻訳」 《Die Zauberfloete (魔笛)》(1791)から《Les Mysteres d'Isis》(1801)
3. 学会等名 オペラ学研究会第51回例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奥香織
2. 発表標題 定期市の舞台から「ナショナル」な歌劇へー国家・公権力との関係にみるオペラ＝コミックの特質
3. 学会等名 「『演劇と音楽』シンポジウム：研究手法の視点から」(西洋比較演劇研究会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 ポスト・ソヴィエト文学研究会編（分担執筆：平野恵美子）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東洋書店新社	5. 総ページ数 384
3. 書名 現代ロシア文学入門	

1. 著者名 S・シャクティダラン(佐和田敬司訳)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 オセアニア出版社	5. 総ページ数 147
3. 書名 難民たちの物語 カウンティング&クラッキング/ボーイ・オーバーボード~少年が海に落ちたぞ！	

1. 著者名 日本18世紀学会『啓蒙思想の事典』編集委員会（編著：奥香織）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 714
3. 書名 啓蒙思想の百科事典	

1. 著者名 Renaud Bret-Vitoz, Michel Delon, Sophie Marchand (dir.) (Kaori Oku, Reception et nouvel usage de Marivaux au Japon. p. 403-410.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Classiques Garnier, Paris	5. 総ページ数 452
3. 書名 Les Lumieres du theatre. Avec Pierre Frantz	

1. 著者名 丸本隆、嶋内博愛、添田里子、中村仁、森佳子、奥香織、平野恵美子、東晴美、佐和田敬司、小林佳織、落合美聡	4. 発行年 2022年
2. 出版社 森話社	5. 総ページ数 536
3. 書名 パリ・オペラ座とグランド・オペラ	

1. 著者名 デヴィッド・ウィリアムソン（訳者：澤田敬司）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 オセアニア出版社	5. 総ページ数 162
3. 書名 リム・バリスト 引っ越し屋/クラブ/デッド・ホワイト・マイルズ 女と男とシェイクスピア	

1. 著者名 小森謙一郎、北村紗衣、戸塚学編、嶋内博愛ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 316
3. 書名 人文学のレッスン	

1. 著者名 平野恵美子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 未知谷	5. 総ページ数 480
3. 書名 帝室劇場とバレエ・リュス ミハイル・フォーキンからマリウス・ブティパへ	

1. 著者名 東晴美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 郡司正勝先生研究会	5. 総ページ数 128
3. 書名 『歌舞伎の出口・入口：郡司正勝先生二十三回忌追善』	

1. 著者名 アンドリュー・ボヴェル、澤田（佐和田）敬司	4. 発行年 2021年
2. 出版社 オセアニア出版社	5. 総ページ数 186
3. 書名 『聖なる日 闇の河 その雨が降りやむとき』	

1. 著者名 奥香織、森佳子他編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 森話社	5. 総ページ数 295
3. 書名 演劇と音楽	

1. 著者名 岡本佳子他編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 379
3. 書名 オペラ / 音楽劇研究の現在：創造と伝播のダイナミズム	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	東 晴美 (Hlgashi Harumi) (10277808)	日本女子大学・文学部・研究員  (32670)	
研究分担者	嶋内 博愛 (Shimauchi Hiroe) (10339674)	武蔵大学・人文学部・教授  (32677)	
研究分担者	奥 香織 (Oku Kaori) (30580427)	明治大学・文学部・専任准教授  (32682)	
研究分担者	平野 恵美子 (Hirano Emiko) (30648655)	中京大学・教養教育研究院・特定任用教授  (33908)	
研究分担者	澤田 敬司 (Sawada Keiji) (50247269)	早稲田大学・法学学術院・教授  (32689)	
研究分担者	岡本 佳子 (Okamoto Yoshiko) (90752551)	神戸大学・国際文化学研究所・講師  (14501)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	添田 里子 (Soeda Satoko)	昭和女子大学・名誉教授  (32623)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	中村 仁  (Nakamura Jin)	桜美林大学・非常勤講師  (32605)	
研究協力者	森 佳子  (Mori Yoshiko)	早稲田大学・非常勤講師  (32689)	
研究協力者	落合 美聡  (Ochiai Misato)	武蔵野音楽大学・大学院音楽研究科・博士後期課程  (32679)	
研究協力者	小林 佳織  (Kobayashi Kaori)	青山学院大学・大学院文学研究科・博士後期課程  (32601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関